



只見町教育委員会  
教育長

渡部 公三

### 只見町に誇りと勇気

第94回選抜高等学校野球大会において、只見高校野球部は全員野球・全力プレーで素晴らしい試合を見せられました。改めて心から「感動をありがとうございます」と申し上げます。

只見高校野球部は僅か15名の少人数であり、また冬期間は積雪により屋外練習が制限されるなどのハンデがあります。只見町はこの冬3mを越す豪雪に見舞われ、さらに新型コロナウイルス感染拡大が続く中で、例年以上に練習は困難であったことと思います。そのような困難を乗り越え、長谷川監督の情熱と指導のもと、吉津塁主将がチームをけん引し、ハンデをバネに工夫を凝らして練習を積み上げた結果、甲子園の大舞台で「笑顔」そして「全力疾走」のプレーを見せてくれました。その姿は町民はもとより、全国の高校野球ファンに共感と感動を与えてくれました。午後6時26分開始という過去の記録を更新する遅い試合開始にもかかわらずアルプスタンドには多くの町民や関係者が応援に駆け付けました。そして友情応援に神戸市の東灘高校と神戸鈴蘭高校が合同プラスバンドを結成し吹奏楽で応援してくれました。町民や関係者の熱い声援と迫力ある演奏が甲子園に響き、選手達はどれほど励まされたことかと思えます。試合は大垣日大と対戦し残念ながら1対6で勝利には至りませんでした。只見高校が上げた1点は、会津地方の学校として甲子園大会初の得点ということで後世に残る活躍として語り継がれることと思います。

只見高校野球部の甲子園出場は、長谷川監督、学校関係者、御家族、地域住民、多くの関係各位の支えによって達成された偉業であります。只見町の児童生徒をはじめ、町民にも大きな夢と感動を与え、只見町に誇りと勇気を与えてくれました。そして、只見高校の発展、振興にも大いに寄与するものと思えます。結びに、今回の甲子園出場にあたり、ご支援ご声援いただきましたすべての皆様、心より感謝とお礼を申し上げ挨拶いたします。

全国3校の代表枠に選考されました。木村理事長には改めて深く感謝申し上げます。

試合当日、甲子園球場での晴姿を応援している人の中に多くの野球部OBがいました。皆、それぞれの時代に甲子園を夢見て練習していた人々です。部員数が足りなくて他のクラブから応援を受けて出場したこともありました。野球部員の保護者が集まってアルペンに屋根を作っていました。新入生の部活はグラウンドの雪崩から始まりました。皆、それぞれの時代に、それぞれの思い出を持ちながら、アルプスタンドで応援していました。

試合結果は敗戦となりましたが、内容は素晴らしい試合でした。「全力疾走」をモットーにはつらつと楽しくプレーしている姿は、スタンドで応援している人だけではなく、テレビを見ている全ての人々にも感動を伝えられる試合でした。

只見高校野球部甲子園出場は只見町だけでなく、全会津に影響を与えたと思っています。21世紀枠での出場が決まると様々な方から連絡をいただきました。支援の輪は瞬く間に広がって、資金の調達もできました。又、試合後はたくさんの方々から「素晴らしい試合だった。ありがとう。」という言葉をいただきました。まさに「会津はつ」になった瞬間ではなかったかと思えます。

甲子園出場に当たり、たくさんのご支援、ご声援をくださった全ての皆様、改めて深く感謝申し上げます。  
そして長谷川監督、野球部の皆さん、多くの感動をありがとうございました。皆さんは様々な方の支えを忘れず、「甲子園に帰る」を目標に頑張ってください。



只見高等学校  
前PTA会長

新國 善之

### 感動の甲子園

去る1月28日、只見高校の「第94回選抜高等学校野球大会」21世紀枠での出場が決まり、2月1日には、甲子園出場後援会設立総会を立ち上げ、出場に向けて準備が始まりました。募金活動では、地域の方々や県内外、全国からの温かいご支援を頂き感謝申し上げます。そして、甲子園、初めて見るアルプスタンドと選手の堂々としたプレーに感動しながら試合を観戦しました。試合は、対戦相手の大垣日大高校に1対6で敗れてしまいました。が、選手たちのプレーは素晴らしく、福島の人々に感動と勇気を与えたいに違いない。友情応援に協力してくださった兵庫県立東灘高等学校、神戸鈴蘭台高等学校の皆さんとの協力で試合を盛り上げることができました。本当にありがとうございます。試合終了後、「いい試合だったなあ」と周りの人々からの声が届いてきました。最後に、甲子園に連れてきてくれた選手たちにありがとうございますと感謝の意を表します。



甲子園出場後援会  
副会長・雪椿会会長

目黒 長一郎

### 素晴らしい試合展開、 そして感動をありがとうございます！

第94回春の選抜高等学校野球大会に、21世紀枠として会津地区では63年ぶりに代表校として選出されました。

冬期間のグラウンドでの練習ができない中で、野球部の皆さんはいろいろな工夫を凝らした練習に取り組み、高校野球の聖地である甲子園球場ではチームのモットーである「全力疾走」を貫き、その姿は、町民はもとより会津や県内を含め多くの皆様に感動を与えました。

甲子園の試合では、初めての大舞台で臆することなく、のびのびと全力でプレーし全国の多くの方々から賞賛の言葉をいただきました。私はアルプスタンドでの応援には行けませんが、テレビの前で応援しながら、その頑張りに感極まったことを思い出しました。

試合では対戦相手の「大垣日大高等学校」に1対6で敗れましたものの、選手はもとより、在校生や先生方、町内外の皆様、友情応援をいただいた兵庫県立東灘高等学校、神戸鈴蘭台高等学校、両校のプラスバンドなど、多くの方々のご支援をいただき、最後まで諦めずに全力で戦ってくれました。全国に「只見」の名を広めることができたと思っております。

只見高等学校雪椿会としても学校やPTA等と一丸となって、これからも只見高等学校発展のため尽くしてまいりたいと考えております。

今回の甲子園出場にあたり、ご協力いただいた関係者の皆様には心から感謝申し上げますとともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



只見高等学校  
野球部OB会会長

鈴木 好行

### 全ての人々に感謝

第94回選抜高等学校野球大会出場おめでとうございます。

思い起こせば私の甲子園への期待は令和3年9月25日の会津学風戦に勝利しベスト8に勝ち上がった時から始まりました。それから21世紀枠での県の候補校となり、東北の候補校となり、そして運命の令和4年1月28日、福島県高野連木村理事長の強い推薦もあり、見事に



只見高等学校  
野球部保護者会会長

吉津 健

### 「大きな可能性への挑戦」へ感謝

第94回選抜高等学校野球大会21世紀枠出場にあたり、野球部甲子園出場後援会の皆様、只見町民の皆様はじめ、県内外全国各地から、沢山の温かいご声援とご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。

今回、1回戦で大垣日大に敗れましたが、夢の舞台である甲子園で選手13人全員が出場し、甲子園初得点を刻み「笑顔で全力プレー」ができましたことは、保護者一同感無量であり、部員と共に一生の宝となりました。また、多くの皆様から「感動をありがとうございます」「大きな勇気をもたらした」「高校野球の原点のような試合だった」などの沢山のメッセージをいただいたことも忘れられません。

最後になりますが、甲子園出場にあたり友情応援をくださった吹奏楽部の皆様、そしてご尽力いただきましたすべての関係者の皆様に感謝申し上げますと共に、今後とも、本校野球部への変わらぬご支援、ご声援を賜りますようお願い申し上げます。



只見高等学校  
PTA会長

本名 俊之

### 小さな学校の大きな可能性

只見高校野球部が「第九十四回選抜高等学校野球大会」に二十一世紀枠として出場し、大舞台でも臆することなく、清々しい試合を見せてくれました。その試合は選手のみならず応援に駆け付けた生徒たちのほか、観戦する我々にも深い思い出となる試合になりました。

山村教育留学生を含むわずか15人のチームですが豪雪地域という困難な練習環境であるにも関わらず、礼節を重んじて全力でプレーする姿は、過疎が進む地域の小さな学校の名を十分に広めてくれたと思います。

今回の出場にあたり吹奏楽の応援で試合を盛り上げていただいた東灘高校、神戸鈴蘭台高校の方々には大変感謝しております。また出場に際し、ご協力いただいた関係者の方々には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。